

滋賀ロケーションオフィス ニュース



第7号 平成17年(2005年)1月25日発行

発行：滋賀ロケーションオフィス
(社団法人びわこビジネスマンズビューロー内)
〒520-0806
滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号
「コラボしが21」 6 階
TEL：077-511-1537
FAX：077-523-7555
E-mail：info@shiga-location.jp
URL：http://www.shiga-location.jp

サポーター登録者数 1,091人
(平成17年1月12日現在)

映画『火火』 滋賀県先行ロードショー がスタート!

信楽を中心に滋賀が舞台の映画『火火』が、全国に先がけて1月22日(土)から県内劇場で公開中です。滋賀ロケーションオフィスでは企画協力をはじめ、撮影全般についてこの作品の製作を支援してきました。

“焼物の里” 信楽の地で、女性陶芸家の草分けとして、また骨髓バンクの設立に尽力した神山清子さんがモデルの、実話に基づく映画です。闘病モノや母子モノにありがちな湿り気を排除した圧倒的なリアリズムに、それでいてユーモアも味付けされた骨太なこの作品。ロケに使われた穴窯や陶芸作



数々の賞に輝く女優・田中裕子さんが、芸術家として、母として、女として火のように生き続ける主人公を見事に演じています。



©2004『火火』製作委員会

品等は全て本物、実力俳優が多数出演する豪華キャストをはじめ、日本映画の才能が結集した感動の最高傑作です。映画は現在、次の劇場で絶賛公開中です。まだご覧になっていない方、「ビデオが出たら見よう」などと言わずに、ぜひ劇場のスクリーンで楽しんで下さいね。

浜大津アーカスシネマ	077-527-9616
水口アレックスシネマ	0748-63-8801
草津シネマハウス	077-562-0336
ワナー・マイカル・シネマズ近江八幡	0748-37-3433
彦根ピバシティシネマ	0749-26-1002

※上映時間等は各劇場にお問い合わせ下さい。

●映画『火火』—あらすじ

夫に去られ、女手ひとつで子供を育てる極貧の生活の中で、積年の夢である穴窯による自然釉に挑戦し続ける神山清子。幾たびもの失敗にめげることなく、数年後、遂に自然釉に彩られた作品を作り出すことに成功する。同じ陶芸の道を歩み始めた息子の賢一とともに作陶に励む清子。そんな幸せも、つかの間、突然倒れた賢一に、医師の診断結果は…。

出演：田中裕子／窪塚俊介／黒沢あすか／池脇千鶴／遠山景織子／岸部一徳／石田えり／井原正巳（特別出演）他

脚本・監督：高橋伴明（『光の雨』、『TATTOO(刺青)あり』）

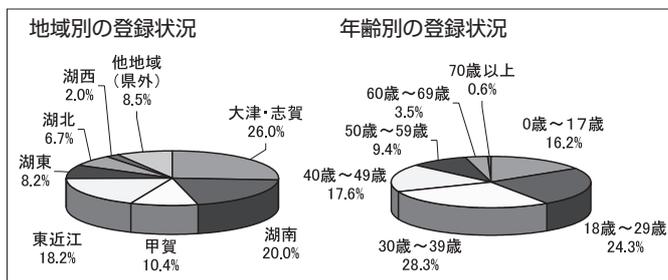
撮影：栢野直樹（『Shall We ダンス?』）

音楽：梅林茂（『LOVERS』）

祝 オフィスサポーター1000名を突破

平成14年秋からスタートした当オフィスのサポーター登録制度が、ついに登録者数1000名を突破しました。映像制作者からの依頼を受けてエキストラ出演等に協力いただくこの制度、募集開始時はオフィスのスタッフも、「300名ぐらいいは登録してくれるかなあ」と期待していたのですが、なんのなんの、メールや葉書での登録申込みは今も毎日届いていて、途切れることはありません。

サポーターは老若男女、その職業や経験も様々です。地域別、年齢別の登録状況はグラフのとおりですが、劇団経験者、



語学のエキスパート、馬の調教師、南京玉すだれの名人、そしていつかは自分で映画を撮りたいと思っている人など、バラエティに富んだ顔ぶれにはスタッフもびっくりしています。

これまでに、映画やドラマなど23作品、延べ570名の皆さんにエキストラとして出演していただきました。作品によっては、長時間待たされたあげく撮影が一瞬で終わってしまったり、せっかくの出番が編集時にカットされたりすることも。それでも、毎回熱心に協力して下さるサポーターの皆さんに支えられて、オフィスの活動は成り立っています。

今回、1000名突破を記念して、映画『火火』の特別鑑賞券を抽選で10組20名のサポーターの方にプレゼントします。応募方法は、登録番号と氏名を添えて、メール、FAXまたは葉書にてご応募下さい。締め切りは2月1日(火)午後5時必着です。

「滋賀県大河ドラマ誘致・推進協議会」が設立されました

2006年のNHK大河ドラマが、戦国武将の山内一豊と夫の立身出世を支えた妻・千代を主人公とした『功名が辻』に決定しました。のちに土佐一国（今の高知県）の大名となる一豊が、初めて知行地を与えられたのが本県の虎姫町であり、その後、豊臣秀吉に重く用いられて長浜城主にもなっています。



国松滋賀県知事はじめ関係団体から多数出席のもと設立総会が開催されました。

また、妻・千代の生誕地が近江町とされているなど滋賀とのゆかりが深く、司馬遼太郎さんの原作では、一豊夫妻と関わっていく人々やその活躍の場として滋賀の地が数多く登場します。

この大河ドラマ『功名が辻』の放送を契機に、豊かな自然や歴史、文化など滋賀の魅力を全国に発信するとともに、引き続き2007年以降の大河ドラマの誘致を実現するため、びわこビジターズビューロー内の組織である当オフィスが中心となり、昨年11月に「滋賀県大河ドラマ誘致・推進協議会」を設立しました。

現在、ゆかりの地域では、『功名が辻』の放送を地域の活性化につなげようと様々な取り組みが検討されています。オフィスにおいても、ドラマの放送を滋賀の情報発信につなげようと努力しているところです。来年1月からの放送をどうぞ楽しみに。

また、今月9日からスタートした大河ドラマ『義経』。県内には、「義経元服の池」（竜王町）や「義経の隠れ岩」（高島市マキノ町）、木曾義仲の墓所「義仲寺」（大津市）などドラマゆかりの地が数多くあります。ドラマのシーンを使った観光振興にも積極的に取り組んでいきます。



最高のロケーションとスタッフも絶賛！

劇場用映画『かぐたば(仮)』 男鬼ロケ

「男鬼」という町がどこにあるかご存知ですか。なんと読むのかって？

「男鬼」と書いて「おうり」と読みます。映画の中の架空の地名ではなく、実在の地名で、彦根市にあります。鈴鹿山系の奥深く、男鬼町は今なお茅葺き屋根の民家がたたずむ静かな山村です。

昨年12月、劇場用映画『かぐたば(仮)』のロケがこの地で行われました。

雰囲気のある山村を探し求めていた製作スタッフに対して、オフィスでは「それならぜひここで！」とPR。区長さんをはじめ住民の皆さんの温かいご協力を得て、ロケ撮影を誘致することができました。

民俗学をモチーフに、映画をドラマ仕立てでなく、ドキュメントタッチで表現するという実験的なこの作品、監督は映画『ウォーターボーイズ』、『スウィングガールズ』の矢口史靖監督に認められて、数々のビデオ映画を監督した白石晃士氏。監督にとっては劇場用映画の初監督作品となります。

年末押し詰まった慌ただしい時期にもかかわらず、50名を超える方々にエキストラ出演者としてご協力いただき、ロケが行われました。

なお、県内ではこのほか、多賀町内の犬上ダム周辺でもロケが行われました。この作品は2005年夏以降、全国洋画系劇場100館以上で公開予定です。

サポーター安野俊丸さんのレポート

まず最初に、演技事務のスタッフから撮影趣旨の説明を受けます。今年でダムに沈む村の最後の祭りの最中、神官が鬼女を退治して無事に終わるはずの祭りは、今年に限って鬼女役が突然錯乱してしまう、というシーン。

祭礼に向かう人々や家の前であいさつをかわす村人役、演出上集められた和犬が玄関先につながれ、家々には生活感をリアルに出すために様々な小道具がさりげなく飾られます。

祭礼シーンでは、錯乱した鬼女がむしろの上をのたうち回る迫力の演技。スタッフの「カット、カット、カット」の大声がかかっても、鬼女役の女優さ



んには届かぬ熱演振り、エキストラからも驚きの声が上がります。結局、何回もの撮り直しを経て、祭礼シーンはようやく撮影終了。

スタッフから「お疲れ様でした！」と声がかかると、エキストラからも一斉に大きな拍手が沸き起こり、「お疲れ様でした」の声が飛び交いました。撮影現場を包む熱気には、ひとつの物を共に作り上げる喜びが隠されていると思いました。

早朝から夕方まで1日がかりの撮影でしたが、映画づくりの楽しさ、物づくりに参加できる喜びを味わうことができました。



海外映画の県内ロケにも力を 入れています



ロケ現場で指示を出すガニオン監督（写真中央）。

昨年秋から年末にかけて、海外映画のロケが県内で相次いで行われました。カナダのクロード・ガニオン監督による『kamataki』は、失意のカナダ人青年が、山深い

信楽の地で陶芸を続ける破天荒な叔父と初めて出会い、陶芸を通じて、激しい炎で焼く「窯焚き」のように心の炎を蘇らせていくストーリーです。

企画段階から撮影誘致に取り組んできたオフィスでは、ロケハンの同行やエキストラ募集など撮影支援を精力的に行ってきました。10月に行われた信楽伝統産業会館でのロケには、藤竜也さん扮する叔父の琢磨が開いた個展の鑑賞客として、サポーターもエキストラ出演。ロケ現場では撮影の合間

に出演者がエキストラとの記念撮影に気軽に応じて下さるなど、張りつめた空気が漂うなかにも、どこかアットホームな雰囲気を感じられる現場でした。映画は今年秋の公開に向けて、製作も大詰めを迎えています。

また、前号でも紹介した中国映画『呉清源』は、近江八幡市を撮影拠点として9月にクランクイン。史上最強の天才棋士と言われた呉清源が活躍する昭和初期のロケーションを求めて、彦根市や五個荘町ほか県内各地で約2ヶ月にわたりロケが行われました。オフィスでもロケハンを中心に撮影支援を積極的に展開しました。この映画は衣装デザインをワダ・エミさんが担当し、日本からも松坂慶子さんや柄本明さんが出演しています。映画は来年5月の完成を目指しています。

オフィスでは国内作品に限らず、海外の製作会社に滋賀を広くPRし、海外映画の撮影誘致にも取り組んでいきます。



サポーターも出演した『呉清源』囲碁道場の撮影シーン。

ロケ紹介

一移動することに。高速道路の料金所では目を丸くされたとか。

歴史体感バラエティー

『日本の歴史(仮)』(フジテレビ)

大化の改新、関ヶ原の戦い、大政奉還 etc…。かつて学校で学んだ「日本の歴史」を振り返りながら、歴史上の重大事件を通じて、現代社会で生きるヒントを学び直すのがこの番組です。オフィスでは、



騎馬隊でも何でもかかってこんかい！意気盛んな鉄砲隊です。

この夏に放送される番組の撮影誘致に努め、12月に県内各所でロケが行われました。滋賀で撮影されたのは、「本能寺の変」を中心に織田信長の生涯を描くドラマ部分です。ロケは4日間で5箇所を移動するハードスケジュールとなりました。

■ ロケ3日目

竜王町で「長篠の合戦」シーンの撮影。出番の早いエキストラは午前5時半集合。憧れ(?)の甲冑を身につけて、武将や足軽などに扮したエキストラ出演者は撮影前から既にノリノリ状態に。わざわざ



本番直前、信長を囲むエキストラ武将の皆さんにも緊張が走ります。

“武將髭”を伸ばしてこの日に望んだサポーターの方は、「40年来の願が遂にかなった！」と自身の武將姿に感極まっていた様子でした。

■ ロケ4日目

野洲市の錦織寺境内をお借りして「本能寺の変」の斬り合いシーン。エキストラが1名不足したため、オフィスのスタッフも侍姿で出演するハメに。一口に斬り合いといっても、躍動感のあるシーンを撮影するため、スタッフからは、一人一人の立ち位置や動きについてピンバシと指示が飛びます。途中から雨が降り始め、あたりが暗くなるなか気温はどんどん低下するなど、エキストラも楽しげないと実感しました。



錦織寺門前を本能寺に見立てた襲撃シーン。明智軍役の皆さん、ワラジ姿で寒中ご苦労様でした。

■ ロケ1日目

大津市の西教寺に午前6時入り。本堂から読経が響くなか、まだ薄暗い境内でスタッフが慌ただしく撮影準備にかかります。信長役は、存在感のある演技で定評のある杉本哲太さんです。冬の朝のピンと張りつめた冷気の中で撮影開始。本能寺に見立てた書院では、今回のドラマの核となる重要なシーンが終日撮影されました。

■ ロケ2日目

西教寺ロケの続き。信長の父の葬儀で、位牌に向かって信長が灰を投げる有名なシーンを撮影。葬儀に参列する家臣役には、サポーターも出演しました。続いて午後の彦根城ロケにも出演したサポーターは、かつらを付けて衣装のままマイカ



自主製作映画『蹴る女』

映画『蹴る女』は、大林宣彦監督から、「近い将来、日本映画を背負う才能」と称賛された津市出身の井村征爾監督の作品です。12月にオール県内ロケで撮影が行われました。

この作品は、数年前に殺人事件の起きた町外れの田んぼ道に出没する“蹴る女”の心の中を支配する深い闇と悲しみ。そして、彼女とイジメに遭う男子高校生との心の交流を描いています。

高校ロケは、業界でも評判の高い草津市の旧県立短大校舎で行われ、懐かしい詰め襟やセーラー服に身を包んだサポ-

ーターの皆さんが高校生役や教師役等のエキストラとして、また津市内の田んぼ道ロケでは、寒風の中、通行人役等のエキストラとしても協力しました。このほか、津市堅田の浮御堂や寿寧寺、最近の病院ロケで協力をいただいている湖南省の生田病院旧病棟でもロケが行われました。



この作品は、2月中旬に大阪で初公開後、国内外の映画祭への参加や劇場公開等が予定されています。



海外でロケ地 SHIGA の魅力をPR

BIFCOM2004に出展しました



BIFCOM 2004 (2004 Busan International Film Commission & Industry Showcase) は、アジアをはじめ米国や欧州等の20ヶ国約70社のFC (フィルムコミッション ※当オフィスの様な公的な撮影支援組織

のことです。)、映像制作会社等が参加し、展示・セミナー・商談等、映像に係る多彩な行事が繰り広げられるアジア最大のマルチ・フィルム・ビジネス博覧会です。

昨年の10月7日～9日に韓国・釜山広域市で開催され、日本からも11FCが出展し、海外の映像制作者との交流やロケ誘致等のPRを行いました。当オフィスも今回初めてブース出展を行い、滋賀のロケ地PRに努めました。

また、BIFCOM2004に併せて、アジア最大の映画祭である「第9回釜山国際映画祭」も9日間にわたり開催されました。この時期、市内は映画祭を盛り上げる横断幕やのぼりで彩られ、まさに街は映画一色に染まります。街なかを歩いているだけで、映画に対する全市あげての熱い想いが伝わってきます。

近年、韓国映画の国際的な評価が高まりつつあることも、このような行政と市民が一体となって映像文化の振興に取り組んでいる姿勢から何うことが出来ました。



AFCNetへの加盟に向けて

AFCNet(Asian Film Commissions Network)は、アジア地域のFCが相互交流を図り、映像制作の活性化と世界の映像文化発展に寄与することを目的に、BIFCOM2004に併せて10月10日、釜山において設立総会が開催されました。日本の10FCを含む、韓国、中国、ベトナム、インドネシアなど6ヶ国18FCが設立当初のメンバーとしてAFCNetに加盟しました。

当オフィスは、今回の設立総会にはオブザーバーとして参加しましたが、今号で紹介したような海外の映像制作支援の実績もあることから、今後も海外での制作情報の収集やロケ誘致等がオフィス運営にとっても重要であるため、AFCNetへの加盟について前向きに取り組んでいきたいと考えています。



サポーター登録証がさらに便利になりました

サポーターの皆さんにお送りしているサポーター登録証で、映画館の入場割引が受けられるのはご存知ですね。県内映画館の窓口で登録証を提示すると、入場料の割引を受けることができます。

このたび津市の滋賀会館シネマホールでも、ホールのご好意により入場割引が受けられることになりました。

これで県内7館全ての映画館で入場の際に割引サービスが受けられます。映画を見に行く時は、登録証をどうぞお忘れなく。

(割引料金は劇場ごとに異なります。各劇場窓口等で直接お尋ね下さい。)

私たちは、滋賀の素晴らしい風景や文化などを全国に紹介するため、滋賀ロケーションオフィスの活動を支援しています。

- | | |
|------------|-----------------|
| 滋賀県信用保証協会 | 株式会社滋賀銀行 |
| 滋賀県興行協会 | 株式会社びわこ銀行 |
| 株式会社ゼンリン | 西日本電信電話株式会社 |
| 琵琶湖汽船株式会社 | 株式会社NTTネオメイトみやこ |
| アイズ株式会社 | NTTオートリース株式会社 |
| 宮川印刷株式会社 | 大津プリンスホテル |
| 株式会社TMオフィス | ホテルニューサイチ |

(敬称略・順不同)

サポーターの皆さんには、苛酷(?)なロケ現場で、いつも快くご協力いただき、スタッフ一同感謝しています。撮影のちょっとした合間、サポーターの皆さんと交わす会話は、現場でのオフィススタッフの楽しみの一つです。

今号は、ささやかながら感謝の気持ちを託して、映画『火火』の鑑賞券を抽選でプレゼントさせていただくことにしました。今年も滋賀ロケーションオフィスをよろしく願い申し上げます。

編集後記